

北イタリア安全対策情報（2024年1月～3月）

1 治安情勢

当地では依然として、スリ、置き引き、自動車盗、空き巣などの窃盗被害が後を絶ちません。日本国内と状況は異なり、被害回復は望むことが極めて難しいため、自分の身は自ら守るという意識と防犯対策が不可欠です。また昨年10月から続く一連の中東情勢の緊迫化に伴い、テロへの警戒感が高まっています。空港、駅などの従来からの対象施設に加え、イタリア治安機関によるイスラエルや米国等の関連施設、コンサート、デモ、国際スポーツイベント等の群衆が集まるイベントの警備強化が行われています。引き続き関連情報の収集及び関連場所等への不要な外出は控えるなど注意をお願いします。

2 日本人被害（件数は当館に届け出のあったもののみを計上）

以下は、日本人の犯罪被害の事例をまとめたものです。

（1） 車上狙い:0件（1月から3月は2件）

（2） 置き引き:4件（同：7件）

被害例：ホテルで朝食時、バッグが違うものにすり替えられた。

（3） スリ:19件（同：9件）

被害例：バスに乗車中、ポーチが開けられ財布が盗まれた。

（4） ひったくり1件（同：0件）

被害例：洋服店で試着中、女性に声をかけられ、別の女性にバックをひったくられた。

3 殺人・強盗・誘拐等凶悪犯罪例

日本人以外の被害が発生した事件の一例を以下にまとめます。

（1） 1月下旬、ヴァレーゼ県において、金属加工会社に勤務するイタリア人男性（26歳）が夜間に自宅に侵入してきた犯人らに首を切りつけられ殺害されました。逮捕された犯人は20歳と23歳で、被害者が常に金属類を身に着けていたことが犯行のきっかけとされています。

（2） 3月下旬、ミラノ市バッジ通りでバイクに乗車した男性が信号待ちで停止中、バイクに乗った2人組の男に高級腕時計を奪われました。こうした金品を奪う強盗が多発しています。

（3） ミラノ市コルソ・コモにあるクラブで18歳の女性は、アルコールにより酩酊となったところ、23歳の男の車に連れ込まれ、性暴力の被害を受けました。こうしたナイトクラブ等での被害は多数報道されています。

4 テロ・爆弾事件発生状況、対日感情の変化、本企業の安全に関する諸問題

イタリア司法当局は、アブルッツォ州ラクイラ市在住のパレスチナ人3名を、民間及び軍事的施設への攻撃を計画するなど国際テロリズム等の事実で逮捕したほか、昨年10月からリスクがあると判断されたアフリカ系移民47人等を摘発するなど、テロ対策が行われています。

5 対日感情の変化及び本企業の安全に関する諸問題

特になし。